

39. 救急センター搬送患者の動向 センター開設前と比較

救急医学講座

鶴見友子、林堅二、高橋宏行、本間康弘、大坪俊紀、大津敏、崎尾秀彰

目的：平成14年4月より当院は三次救急指定病院として併設型救命救急センターが開設され、救命救急センター開設前後における救急患者の動向について検討を行った。

方法：平成13年4～9月（センター開設前）と平成14年4～9月（センター開設後）の同時期における6ヶ月間の救急搬送患者の動向を検討した。

結果：開設前後で患者動向に変化はあまり見られないが、CPAOA、中毒、外傷患者数が増加している。併設型の救命救急センターにおいては各診療科の協力が必須である。

40. 皮膚エコーによる全身性強皮症の皮膚硬化の評価

皮膚科学

橋壁道雄、長沢由美、宮本由香里、大塚 俊、大塚 勤、山崎雙次

目的：全身性強皮症（SSc）患者の皮膚病変に対する皮膚エコーの有用性について検討した。

対象・方法：患者60例、健常人60例を対象とし、右前腕伸側、右手背、右中指背の真皮厚およびエコー強度を測定し、比較検討した。また、modified Rodnan total skin thickness score（m-Rodnan TSS）との相関を検討した。

結果・考案：SSc群はcontrol群と比較して、真皮厚は厚く、真皮エコー強度は低値であった。m-Rodnan TSSと真皮厚、真皮エコー強度の間には相関関係が認められ、scoreが高い症例ほど真皮厚は厚く、真皮エコー強度は低値であった。皮膚エコー検査は簡便かつ非侵襲的で、繰り返し測定が可能であり、SScの真皮厚、真皮エコー強度を測定することは皮膚硬化の評価に有用と考えられた。